

授業科目名	掘削現場のコミュニケーション			開講年度・時期	2027年度 修了期
担当者名	佐々木 慶幸	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験					
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	掘削現場では日常生活で使用される会話や用語とは異なる表現や言い回しがある。これらに慣れ、円滑かつ安全に仕事が遂行できるように、現場用語を習得し、現場を想定した聞く、話す、読む、書くというコミュニケーションについて習熟する。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	1 現場のコミュニケーションで学んだ1～10の項目について振り返る（8校時） 2 問題発生を報告する（3校時） 3 困っていることを相談する（3校時） 4 連絡事項を伝言する（3校時） 5 指導・アドバイスを受ける（3校時） 6 業務の成果や課題を話す（3校時） 7 応用編についての2～6を振り返り会話練習（7校時）				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な現場用語を身につける。 ・正確な聴き取りと書き取りができ、内容の正確な理解ができるようにする。 ・リーダー的な役割となったり、場面や危険回避が必要な場面では自らが発声者となることが求められる。正確な用語や言い回しで話すことができるようにする。 				
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての提出物（レポート） 2 授業中の取り組み姿勢（指示されたことについて「聴き取り」「発声」「会話」ができているか） 3 疑問解消の努力（講師に対して積極的に質問を行う等、わからない部分を無くす努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	自分の頭で考えること、他者と意見交換や協議を行い視野を広げること、一人で行う作業、協働作業などを柔軟に行う姿勢を大切にすること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社		ISBN	
	ゲンバの日本語 応用編	一般財団法人海外産業人材育成協会		ISBN978-4-88319-876-4	

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。